



第22回日本骨粗鬆症学会
第38回日本骨代謝学会学術集会

共催セミナー **19**

日時・会場

11.21 2020
SAT
11:00-12:00

配信チャンネル
共催会場

骨代謝マーカーおよび骨代謝関連検査 Update 2020

演者

三浦 雅一 先生

北陸大学薬学部薬学臨床系病態解析学分野
北陸大学健康長寿総合研究グループ

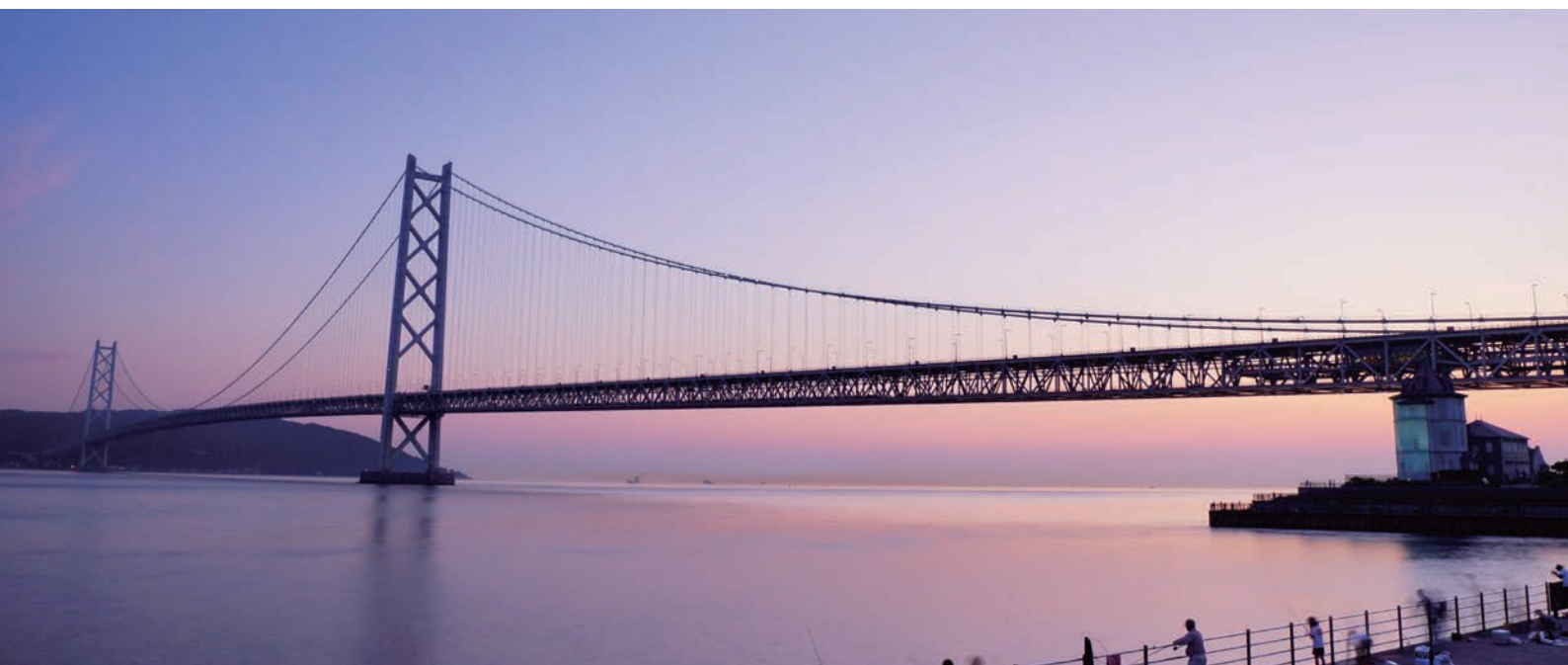
本学術集会はWEB開催となっております。

第22回日本骨粗鬆症学会

検索

【注意事項】 事前に参加登録が必要になります。下記URLより、参加登録をお願い致します。
<https://site2.convention.co.jp/bone2020/registration/>

共催：第22回日本骨粗鬆症学会／第38回日本骨代謝学会学術集会
ヤマサ醤油株式会社／ベックマン・コールター株式会社



骨代謝マーカーおよび骨代謝関連検査 Update 2020

三浦 雅一 北陸大学薬学部薬学臨床系病態解析学分野／北陸大学健康長寿総合研究グループ

骨の代謝状態は日々変化し、その状況により骨量あるいは骨強度が維持され、または変化が生じる。骨の状態を知ることは骨粗鬆症の病態を検討するには必須の項目であり、具体的に実臨床において、骨代謝回転の評価の指標として骨代謝マーカーなどのバイオマーカーが用いられている。骨代謝マーカーに求められる役割としては、(1) 骨代謝状態の評価ないしは骨量減少危険度の評価、(2) 骨折危険度の評価、(3) 薬物治療の評価などが挙げられる。骨代謝マーカーの実臨床での使用指針として、本学会骨代謝マーカー検討委員会が中心となって「骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイド」を策定し、公表している。

骨粗鬆症の臨床において加齢や病態による骨代謝の状態や薬物投与後の変化をみるのに不可欠なツールとして、より動的な指標が望まれる。骨代謝マーカーは、日々の骨代謝状態を適確に表現しうることで認められており、動的指標としての有用性がより高い。このため、骨代謝マーカーは骨粗鬆症治療のマネージングに欠かせない診療ツールであり、優れた動的指標が得られる検査項目となっている。

現在、保険適用となった骨代謝マーカー（骨形成マーカー：BAP・P1NP、骨吸収マーカー：DPD・NTX・CTX・TRACP-5b、骨マトリックス関連マーカー：ucOC）を用いて治療薬の選択や治療効果の評価が可能となり、実臨床では検査項目として汎用されるようになった。また、骨マトリックス関連マーカーとして分類されているペントシジンも研究用試薬として実臨床に使用可能な新たな測定キットが開発され、骨の材質特性の評価が出来るかもしれない検査項目として期待も大きい。一方、骨代謝関連検査として25-ヒドロキシビタミンD（25(OH)D）が、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に使用可能となった。

本セミナーでは、骨代謝マーカーおよび25(OH)Dについて、実臨床での最新の話題や問題点などについて紹介してみたい。